

クウェート政府奨学金

2007年—2008年度留学生

留学前夜

名古屋大学文学部言語学専攻 合川 嘉彦

良縁か奇縁かはまだ分からないが、とにかく縁があったようでクウェート政府奨学金留学生としてクウェートに留学することになった。そして、何の因果か大使館の手先、クウェート留学生の生活を紹介するという大役を仰せつかったので、少々の間お付き合い願いたい。どうか URL はそのままです。

12月中旬現在で、こちらに来て2ヶ月半が過ぎた。トップバッターということで、始めの頃のこと、クウェートに着くまでの話を中心に書こう。

クウェート政府奨学金留学生の募集に願書を出したのが6月某日のこと、選考の結果が返ってきたのが7月末日、運良く合格通知だったので、それから大学に休学届を出して、お世話になった人と報告&激励のやりとりを一通り済ませてから下宿を引き払って実家に引きこもり、次の連絡を待った。大学を1年休学する手続きをしてみたし今さらドッキリでした、なんてことはないよな、と無用な心配などしつつ、しばらくは社会的に中途半端な状態の、非常に居心地の悪い日々を過ごす。何度か航空会社とやりとりしたにもかかわらず全く事態が進まない、出発予定日の3日前になってもフライトの時間が決まらず。当然チケットもなく、さらにパスポートとビザも手続きのために大使館に送っており手元にない、とくれば笑うにも笑えない状況である。出発前日の朝にパスポートとビザが無事届き、それから名古屋で発券というギリギリのスケジュールであった。あとで分かったことだが、出発予定日の朝に郵便局留めでパスポートとビザを受け取った留学生や、搭乗予定の飛行機の予約がダブルブッキングしておりキャンセル待ちした留学生もいたそうだ。アラブ的時間感覚の先制パンチに、出発前からグロッキー気味である。あれやこれやとバタバタしたおかげで出発の感慨を感じるヒマもなく、結果的には予定通り、マーシャラー、27日の昼の便で中部国際空港から出発した。バンコクで9時間トランジットがあって、現地時間の28日(金)早朝にクウェート着。無事に本年度の日本人留学生5人(男3:女2)がそろい、大使館の担当者と初顔合わせを済ませると、大学の送迎バスで寮に直行。寮の管理人に英語が通じず、いきなり面食らう。紆余曲折あり、ものすごく時間がかかったが、なんとか入寮できた。

クウェート大学は市内に4つキャンパスを持っており、残念ながら男子寮と女子寮は別々のキャンパスに位置する。シュウェイク・キャンパスにある男子寮は全部で4棟あり、11階建て各階10部屋である。机、ベッド、クローゼットのための簡素な部屋で、感覚的には9畳くらいであろうか。シャワー、トイレ、洗濯機は各階にあり、共同使用である。昨年途中までは2人部屋だったそうだが、今年からは1人部屋であり、11階の1号室に宛がわれ

る。非常に眺めが好いのだが、エアコンの室外機が屋上に設置されており、夜はその音がうるさい。他にも捜せば不満はいろいろあるのだが、あまり気にしないことにした。郷に入りては郷に従え。住めば都。虎穴に入らずんば虎子を得ず。最後のはちょっと違うか。ちなみに、去年も 1001 号室に日本人が住んでいて、彼はとてもアラビア語に堪能だったそうだ。あやかりたいものだ。

本奨学金では学費、渡航費、食費、月々の生活費、衣料費が保障されており、ここで生きていくのには何も不安はない。このような恵まれた環境で勉強することができるのは、クウェート政府ならびにクウェート大学、そして多くの方々の尽力のおかげである。ここに感謝を記したい。